

令和3年度第1回狛江市市民活動支援センター運営委員会議事録

日 時 令和3年4月21日(水) 10:00~11:30

場 所 狛江市防災センター402.403 会議室

出席者 上田英司(委員長)、伊藤輝芳(副委員長)、青木香奈、小川三男、梶川朋、
佐藤新哉、清水信之、松村正俊、三島瑞子、三角佐智子、長尾眞木、進藤実

欠席者 伊藤聡子、古川裕朗

事務局 小楠事務局長、大山センター長、高橋、森、鈴木(記)

1 開会のことば

狛江市市民活動支援センターこまえくぼ1234 高橋より

コロナ禍における会議についての諸注意について説明

- ・資料の確認
- ・本日の会議は、出席者12名と委任状2名で過半数を超えるため委員会成立となる。

2 あいさつ

上田委員長よりあいさつ

コロナ禍で昨年度から市民活動のやり方も色々と見直しが必要となった。委員会も様々なアイデアを出し合いながら取り組みをしていきたい。

3 議題

(1) 報告事項

①社会福祉協議会人事異動について

小楠事務局長より紹介→職員(鈴木綾乃主任)挨拶

②内海貴美副委員長の退任について

- ・事務局より説明

副委員長として選出していたが、市民参加と市民協働に関する審議会の任期が前年度で終わり、運営委員も退任となった。

- ・委員長より、今回の退任に伴う新副委員長の選任について

今回の退任に伴い、副委員長1名空席となるが残任期間が1年であり、委員会の方針も決まらないため副委員長の後任は選出はせず進めていきたい。

→異議なく提案内容で承認された。

(2) 協議事項

①令和2年度事業報告書(案)について

・事務局より説明

事前配布資料に基づいて説明。

開催通知の前に(仮)というタイトルのものを配布し事前に意見集約をした。会議前にでた意見を反映し本日配布の最終案とした。

→全員一致で承認となる。

《質 疑》

(運営委員)

CSR 社会貢献活動にはどのようなものがあるのか？

(事務局)

特命職員が配置されている。事業所を回って協力を依頼している。

CSR 登録の事業所2社が子どもの職場体験ができないことを理解し、協力者として、社会教育課と共同で動画の作成に取り組んでいる。こまえくぼ1234のホームページにはCSR社会貢献事業一覧がある。

(運営委員)

この報告書の位置づけについて確認したい。運営委員の活動なども記載されていないが見えるようにしたほうが良いのではないか。

(事務局)

報告書の位置づけは行政に対する指定管理の報告である。運営委員会の位置づけは、計画の承認と事業報告の承認という位置づけである。運営委員会は事業としての取り扱いになっていないので、報告書には記載していない。

(委員長)

事業報告にはガバナンス的なことは記載されていない。以前(2年前)にも同じような討論をした記憶がある。市民向けについては当然色々な取り組みの仕方(報告の仕方)について、検討の余地がある。

(運営委員)

市から見てこの報告書(案)がこれだけなら、事業の透明化等も含めて運営委員会などで審議されているということを周知したほうが良いのではないだろうか。

(運営委員)

運営委員会の位置づけの合意が必要なのではないか？運営委員は「社協の会長に対して答申する位置づけ」なので、社協から運営委員として任命されている。「こまえくぼの運営にかかわることについて報告する相手は会長。この報告書(案)は、社協が「市に出す報告(案)はこれでいいか？」と運営委員会に確認し、良いか悪いかは会長に回答するだけで、それ以上のものはない。

(運営委員)

説明の中に「事業所」という表現があったが、事業所の解釈もいろいろあるので言葉の使い方に配慮が必要でないか。

(委員長)

コロナ禍が長びいて、今後の活動について悩んでいる団体などもあるが、同じようなアンケートの回答を多方から求められて大変という声もきく。公民館、こまえくぼ両方に登録している団体に向けて現状に関するアンケート調査を協力しておこなうなどはできないか

(委員長)

以上で、質疑を終わりとして評決を行う。意見交換の中で見えてくることもあるが今回はプロセス的に厳しいと思うところもあるので、報告書については原案で評決を行いたい。

→全員一致で承認となる。

②令和3年度検討チーム事業への協力について

委員長から3つの検討チームと進行について、説明がされる。

(委員長)

都内で運営委員会を設置しているところはどのくらいあるのでしょうか。

(運営委員)

都内に様々な市民活動支援センターあるが、運営委員会があるのは半分くらい。調布市は東京ボランティア・市民活動支援センターと共同でフォーラムを開催している。運営委員会のあり方も様々である。

(委員長)

今までも部会やタスクチームに参加しているが、意見をもらうだけでなく協働して活動ができるよう検討チームで実施していきたい。規約に書かれたものではなく、積極的に参加協力をお願いしたい。

チームについて具体的なアイディア的な意見交換ができればいいのではないか。知識等の反映をしていきたい。

(事務局)

検討チームについては事業計画の中に記載してあるが、職員の経験によりアイディアも偏りがある。委員さんに助言をもらい、一緒に事業を実施したいとの思いから計画に載せた。

≪事務局より個別説明≫

ア) きっかけ作り

コロナ前には、継承する人材がいない、メンバーが増えない等の問い合わせが多かった。テレワークの推進等働き方も変わり、地域に対する見方も変わってきたのではないか。どういう働きかけが有効か意見を出し合って進めていきたい。

イ) 社会資源の活用

令和2年度では、数名の運営委員にも参加していただき、地域で使える場所の情報をHPにまとめている。人材も含めどういったものがあるか、どういう形でまとめていくのか検討をしていきたい。

ウ) 調査・研究

市民活動の流れが変化してきている。調査内容についてまとめていく。今年度中にまとめる。

(委員長)

事前打ち合わせで「新しい社会資源」とは？という議論などもあった。今年度は5周年イベントもあり、いろいろな意見交換がされました。深堀をするために時間をとっていきたい。

→3つのテーマに分かれそれぞれについて意見交換を行った。

4 その他

特になし。